



本願寺長野別院からの手紙 < 秋号 >

(長野別院・定専寺・善立寺)

お彼岸を前に



お盆が過ぎ、実感として秋が感じられるようになってきました。今年はコロナウイルスの関係で帰省を自粛され、お盆らしい「お盆」を過ごすことができなかった方が多いのではないのでしょうか。故郷である「いなか」ではひっそりと、静かにお盆が過ぎていきました。

亡き大切な方を偲ぶことは、今の私をしつかり見つめることにつながってくる大切なことと受け止めています。そこで、9月にはお彼岸をお迎えします。彼の岸(お浄土)に往生生まれた(往生)亡き大切な方を通して、この私も同じように彼の岸に到るべき身であることを味わってみてください。こう申しますと「死ぬことか」と思われるかも知れませんが、そうではありません。むしろ、精一杯、どう生きるかと言うことと関係しているのです。

古

来、仏教では彼の岸に至るためには、6つの約束事(六波羅蜜「布施」「持戒」「忍辱」「精進」「禅定」「智慧」)が必要なのです。しかし、それを邪魔するものが人間が持つ煩惱です。煩惱によって、ちよつとぐらい、ばれなかつたら、みんなやっつてることだし、と自分勝手に言い訳を用意して生きる私たちですから、6つの約束事を達成することはできません。それをなんとか達成するための「自力」の仏教では、そのために厳しい修行がなされたのです。

私たちの浄土真宗の宗祖である親鸞聖人も9才から29才まで、比叡山でそのための修行を積まれたことは皆さんもご存知のことでしょう。しかし、いくら求めても求めきれない身のありようを「いづれの行もおよびがたき身」「煩惱具足の凡夫」と表現されています。

ところが親鸞聖人は、このような身、存在であるからこそ、まさに阿弥陀如来の間違いないめあてであることを、お釈迦さまが明らかにさ

れたたくさんの教えの中の浄土三部経(無量寿経)「観無量寿経」「阿弥陀経」から確信を得られるのです。「そのままの私」で良いことを喜ばれたのです。この喜びの中にホッとした安心と共に、「めあて」であるからこそ向けられた大きな「ねがい」を私のためのものと受けとられ、その「ねがい」に少しでもかなった生き方をめざして歩まれたのでした。

お取り越し

「報恩講」



10月は、本願寺長野別院で報恩講法要が勤修される月です。親鸞聖人の御命日は、新暦で1月16日です。できることならご命日に、ご本山でのご縁に会いたいために、前もって法要をお勤めするのです。そのため「お取り越し」とも呼ばれます。

ところで、親鸞聖人のご往生の様子をひ孫の本願寺第3代覚如上人は『御伝鈔』に、「仲冬下旬の候より、いささか不例の気まします。それよりこのかた、口に世事をまじへず、ただ仏恩のふかきことをのぶ。声に余言をあらはさず、もつぱら称名たゆることなし。しかうしておなじき第八日「午時」頭北面西右脇に臥したまひて、つひに念仏の息たえをはりぬ」と表現されています。

そこでまず、「仲冬下旬」は冬(10月から12月)の真ん中ですから11月を指し、その下旬です。それから21日頃から具合が悪くされたようで、それから第8日ですから11月28日(旧暦)のお昼頃に声ではなく、念仏の「息」が絶えたとあり

京

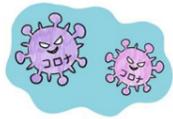
都・本願寺では今でも7日間にわたって1月16日をご満座として法要は勤まりますが、長野別院ではお取り越しとして10月23日(金)から26日(月)までお勤めいたします。新型コロナウイルスの影響で例年とは違った形になりましたが、ご一緒に親鸞聖人のご苦勞を偲び、み教えをよるこばせていただきます。

新型コロナウイルスより怖いもの

「新型コロナウイルス感染症に関連して、不当な差別や偏見をなくしましょう」「恐れるべきはウイルスで、人ではない」「新型コロナウイルスによるもうひとつの苦しみ 差別」「新型コロナウイルス感染症の怖さは、病気そのものの怖さだけではありませんでした」「コロナよりも怖いのは人間だった」。このような書き出しが目立ちます。皆さんはどのように思われるでしょうか。みんな不安なはずで、感染した人は誰もいません。しかしながら、誰もが感染しないとも限らない社会の中に生きているのです。ある機関誌からの文章を引用させていただきます。

今

回の新型コロナウイルス感染症による混乱は、やがては終息する。その時どのような社会が来るのか。社会に大きなインパクトを与える出来事が生じると、人間の価値観も生活様式も大きく変わるし、揺さぶられる。：しかし「変えていいもの」がある。同時に「変えられないもの」「変えてはならないもの」もある。新型コロナウイルスの流行の中で誰かを支えようとしている人たちがいる。



新型コロナウイルスの流行で、自分の行動が無意識のうちに感染を広げ、誰かの命を奪うこと

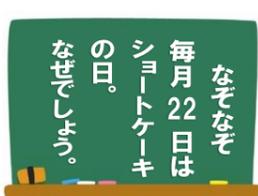
になりかねないことを知ったと言える。多くの人間が「自粛要請」に応じたのも自分だけのことではなく、他者との関わりに思いをいたしたからであろう。それは、人間は誰もが同じ社会の一員であるということを改めて自覚させられた契機でもあった。これまで「個」の尊重、「個」の尊厳が掲げられながらも、多くの人間が社会の中で「孤」に落ちてしまったことを踏まえるならば、新型コロナウイルス禍が改めて社会のありようを示したとも言えるだろう。教条的に「ウイルスに感染しない、させない」だけを目的にしていたならば、私たちは「コロナ格差」社会における傍観者・差別者になるだけである。繰り返すが人間は一人ではいきられないということでもある。

またそれは、新型コロナウイルス感染症への偏見や差別は、差別される個人の痛みだけでなく、それを放置することが一人で生きられない社会の不安につながるということでもある。先に人間と感染症の関わりを振り返ったとき、終息のない感染症の流行はないと述べたが、一方で流行時に、将来への見通しが不安な状況において、それと密接に関わるのが猜疑心であり、敵意であり、差別・排除意識であろう。先に述べた「自粛警察」の横行にそれが見られる。「敵意」は日頃の鬱積感情や差別心、排他主義等の典型的な表れである。

新型コロナウイルスへの対応は、差別・被差別からの解放、御同朋の社会をめざす私たち念仏者の試金石でもある。(『振興会通信』第153号より)

※いろいろ書いてみました。

輪番 齋藤英明



コロナ禍で君と逢えずに過ごす日々君という字に「コ」が「ナ」に見つかる

なぜなら毎月22日はショートケーキの日。なぜでしょう。



2020(令和 2)年

秋 本願寺長野別院からお知らせ

(長野別院・定専寺・善立寺)

本願寺長野別院
〒380-0845 長野市西後町 1653
TEL 026-232-2621 / FAX 026-235-0210
http://www4.hp-ez.com/hp/naganobetsuin



2024(令和 6)年に 本願寺長野別院 創立 100 年の法要

本願寺長野別院は、1925(大正 14)年に正法寺より、京都西本願寺の直属寺院として本願寺長野別院となりました。

1974(昭和 49)年、「親鸞聖人御誕生 800 年・立教開宗 750 年・長野別院創立 50 年慶讃記念事業」として現在の本堂が建立され、大谷光照門主(当時)御親修により『長野別院本堂落成慶讃法要』が勤修されました。

1985(昭和 60)年、「長野別院創立 60 年記念事業」では庫裏が建設され、1995(平成 7)年、本堂を再整備し、内陣・外陣、本堂内外装を一新して、大谷光真門主(当時)御親修で『長野別院創立 70 周年記念法要』が勤修されました。本堂の階上には「無量寿堂」を併設し、納骨所として機能しています。

来る 2024(令和 6)年に「親鸞聖人御誕生 850 年・立教開宗 800 年・長野別院創立 100 年慶讃法要」を勤修の予定です。



別院境内墓地



本堂階上にある納骨堂

◆どなたさまもどうぞお参りください。
◆新型コロナウイルス感染防止のため、本年度はお齋等の接待を中止とします。また、恒例の「真宗フェスタ」も中止とします。ご了承をお願いいたします。
◆感染防止対策を行ったうえでの勤修です。マスクの着用にご協力ください。

10月23日(金) 初夜(善立寺)
24日(土) 晨朝・速夜・初夜(定専寺)
25日(日) 晨朝・速夜・初夜
26日(月) 晨朝・日中
※晨朝(朝7時)、日中(午前10時)
速夜(午後1時30分)、初夜(夕6時)
※24日、日中は帰敬式

報恩講法要

講師 石崎 博敏 師(大阪府堺市 大円寺)

9月21日(月祝) 今井 光信 参勤
22日(火祝) 齋藤 英明 輪番
23日(水) 河野 慶龍 承仕
※講師は職員が務めます。
※いずれも午後1時30分から

秋季彼岸会

(22日、物故者追悼法要・永代経法要 併修)

9月16日(水)・17日(木)
講師 雲林 重正 師(新潟県長岡市 浄秀寺)
10月16日(金)・17日(土)
講師 岡橋 聖舟 師(京都府和東町 西方寺)
※いずれも午後1時30分から

御命日法要・常例法座

お寺で葬儀

ご家族など、親しい人、大切な人のご逝去について、あらかじめ考えておいてください。

突然のことならなおさら、覚悟をもって臨んだとしても、受け入れがたい出来事が大切な人の死です。そのとき、残されたものには悲しむ時間もなく、慌ただしく過ごす中で、最初に考えていかなければならないことが、お葬儀に関する事です。

そこで、ご遺族にとつて様々な面でできるだけ負担がかからないよう、普段から関係がある「我が家のお寺」でお葬儀を営むことを呼びかけています。

最近、病院でお亡くなりの方が多いため、病院がすすめる葬儀社に一切をお任せする方もいらつしやいます。また、お葬儀のために互助会に加わっていらつしやる方もありますので、強い呼びかけはできませんが、お寺でお葬儀を営むことについて、少し考えてみられてはいかがでしょう。



大切な方のご逝去に際しては、まずは「お寺」にご一報ください。

私の車には山口ナンバーのプレートがついています。県外ナンバーということから、移動中、どんな目で見られているのだろうか、案外ヒヤヒヤしています。今のところ、煽られることもありません。ホッと心の豊かさを実感しています。

長野別院 創立百周年にあたって

お墓、納骨堂、合葬墓のこと

昨今、「墓じまい」という言葉を耳にすることが多くなりました。近い将来には、代々の墓を守ってくれる人がいないといった理由などから、お骨を取り出して、お寺の合葬墓に移したりされています。これまでは、代々にわたって当たり前前に相続されてきたことが、次第に難しい時代になったのです。実際、墓地によっては、草に覆われた一面があることもめずらしくありません。無縁になったことがうかがえます。お墓自体は礼拝の対象ではありませんが、この私が今ここにいることをうなずかせてくれる大切なご縁となる場です。

忙しさの中でなかなか両手を合わせることを忘れがちな現代の生活において、私の両手が合わさって、頭を下げるができる尊い場所がお墓や納骨堂でもあるのです。

お彼岸の前に、お墓のこと、納骨堂のことを考えるきっかけにはいかがでしょうか。

ところで、4年先の令和6年には、本願寺長野別院創立百年の法要を迎えます。それを機に、現在ある墓地や本堂上階にある納骨堂の整理を行い、併せて合葬墓の整備を予定しています。どうぞ、ご協力方よろしくお願い申し上げます。追って、ご門徒、有縁の皆さまにお参りいただきやすく、ご縁を大切にできるお寺であるために、お墓や納骨堂、合葬墓に関しましてご意見やご要望がございましたら、ぜひお寄せいただけますようお願い申し上げます。

納骨堂

本堂階上に設置されてある納骨堂ですが、スペースがあることから増設を考えています。ご希望の方はお問い合わせください。

境内墓地

現在、10区画程度の空き状況となっております。ご希望の方はお申し込みいただければと思います。お問い合わせください。

合葬墓

すべて有縁の方々のお骨が一緒に納められている、古くからの合葬墓が存在しますが、アクセスが悪く、不便な状態になっています。墓じまいの状況などから、新たに設置を検討しています。ご関心ある方はお問い合わせください。

お問い合わせ・ご相談

お気軽に遠慮なくお尋ねください。
本願寺長野別院 〇二六―三三三―二六二一
(善立寺・定専寺)

9月の言葉<本堂正面掲示板>



※本年度の「護持費」並びに「墓地管理費」をお納めいただき有り難うございました。別院の諸設備の維持や法要・法座などの各種行事の運営等に有意義に使わせていただきます。皆さまのお寺ですので、どうぞ、気になることがございましたら、ご意見くださいますようお願いいたします。

輪番 齋藤英明